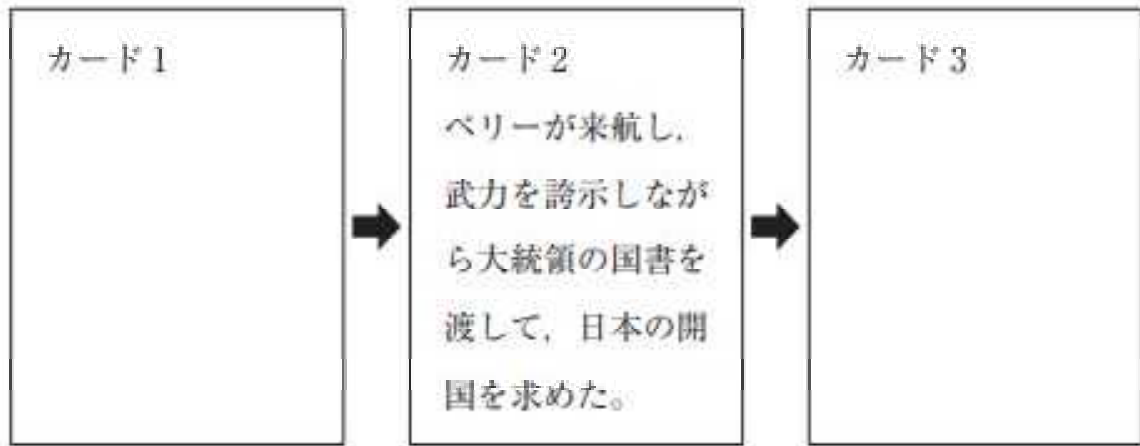


【平成29年度試行問題】 高校生の明子さん・太郎さん・武史さんは、江戸時代末期から明治時代にかけての勉強をしている。その学習で使ったAの資料と会話文を読み、下の問いに答えよ。

A 幕末期の年表

西暦(年)	事 項
1853	① <u>ペリー来航</u>
1854	日米和親条約調印
1858	② <u>日米修好通商条約調印</u>
1860	桜田門外の変 (ア)
1863	八月十八日の政変
1864	禁門の変 四国連合艦隊、下関を砲撃 第一次長州征討(長州戦争)
1866	薩長同盟(薩長連合) 第二次長州征討(長州戦争) (イ)
1867	大政奉還 王政復古の大号令

問 1 下線部①に関連して、明子さんは、このできごとの前後関係を説明するために3枚のカードを作成した。次のa～dの文のうち、カード1とカード3に入る文の組合せとして適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。



- a アメリカはカリフォルニアまで領土を拡張し、太平洋を横断する貿易船や捕鯨船の安全に関心を持った。
- b アメリカでは国内を二分した戦争が終わって統一が回復され、海外通商に関心が生じた。
- c 瓦版や錦絵が多数出回り、民衆の間でもアメリカなど欧米への関心が高まった。
- d 新たに開港場が設けられ、アメリカは日本にとって最大の貿易相手国となった。

- ① カード1 — a カード3 — c
- ② カード1 — a カード3 — d
- ③ カード1 — b カード3 — c
- ④ カード1 — b カード3 — d

問 2 下線部⑥に関連して、太郎さんは、条約交渉における幕府の対応について調べた結果、X・Yの二つの異なる評価があることが分かった。X・Yの評価をそれぞれ根拠づける情報をXはa・b、Yはc・dから選ぶ場合、評価と根拠の組合せとして適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

評価

X 幕府は西洋諸国との外交経験が不足しており、外国の威圧に屈して、外国の利益を優先した条約を結んだ。

Y 幕府は当時の日本の実情をもとに外交交渉を行い、合理的に判断し、主体的に条約を結んだ。

根拠

- a のちに条約を改正することを可能とする条文が盛り込まれていた。
- b 日本に税率の決定権がなく、両国が協議して決める協定関税制度を認めた。
- c 外国人の居住と商業活動の範囲を制限する居留地を設けた。
- d 日米和親条約に引き続き、日本は片務的最恵国待遇を認めた。

① X — a Y — c ② X — a Y — d

③ X — b Y — c ④ X — b Y — d

問3 明子さんと太郎さんは、なぜ江戸幕府が滅亡したのかを考えた。その結果、滅亡までの十数年間に、幕府が統治能力を失う重大なできごとがあり、それが幕府滅亡への画期（ターニングポイント）になったとの結論にいたった。明子さんは、年表中の（ア）のできごとを画期ととらえた。太郎さんは、年表中の（イ）のできごとを画期ととらえた。あなたは、どちらの考えを支持するか。支持するできごとと理由を正しく組み合わせよ。できごとは次の①・②のうちから、理由は下の①～④のうちから一つずつ選べ。

できごと

- ① 年表中の（ア）のできごと ②年表中の（イ）のできごと

理由

- ① この事件の結果、流通機構が混乱し、幕府の市場統制力が弱まったから。
② この事件の結果、圧倒的な軍事力を背景とした幕府支配が困難となったから。
③ この事件の結果、幕府は朝廷への報告を行い、諸大名にも広く意見を述べたため、外交を専断できなくなったから。
④ この事件の結果、一部の幕閣による専制政治を進めてきた幕府が、強権で反対派を押さえられなくなったから。

解答

問 1 ①

- a ○ b →開国後
c ○ 授業で見たとおり。 d 「日本にとって最大の貿易相手国」はイギリス。

問 2 ③

X 幕府は西洋諸国との外交経験が不足しており，外国の威圧に屈して，外国の利益を優先した条約を結んだ。

- a ×幕府の合理的判断の例 b ○外国の利益になる

Y 幕府は当時の日本の実情をもとに外交交渉を行い，合理的に判断し，主体的に条約を結んだ。

- c ○外国人の居住と商業活動の範囲を制限する居留地→主体性発揮の例。
d ×「片務的最恵国待遇」は「外国の利益」の例。

問 3 ①→④ or ②→②

◆①年表中の(ア)のできごと = 桜田門外の変

○④一部の幕閣 (=井伊直弼)による専制政治を進めてきた幕府が，強権で反対派を押さえ(=安政の大獄)られなくなったから。

×③「幕府は朝廷への報告を行い」は，阿部正弘

◆②年表中の(イ)のできごと = 第二次長州征討

○②薩摩藩の変化等で「圧倒的な軍事力を背景とした幕府支配が困難となった」。

×①開国後の貿易問題についての説明

試行の際の正答率 問1 34.3 % 問2 43.4 % 問3 44.2 %